

議事要旨

1 会議名	第2回 吹田市ごみ減量再資源化推進会議
2 次第	<p>1 北摂7市3町と民間11事業者との協定締結について</p> <p>2 食品ロス削減について</p> <p>(1) 令和5年8月に開催したフードドライブの取組結果</p> <p>(2) 令和5年10月に実施したてまどりキャンペーンの結果</p> <p>(3) その他食品ロス削減の取組について(フードシェアリング)</p> <p>3 来年度以降のごみ減量再資源化推進会議について</p> <p>4 その他</p>
3 開催日時	令和6年(2024年)1月26日(金) 午後3時00分~午後4時30分
4 開催場所	千里山コミュニティセンター 多目的ホール、Zoom
5 出席委員	<p>会 長</p> <p>市民団体 7名</p> <p>事 業 者 10名</p> <p>行 政 1名</p> <p>合 計 19名</p>
6 発言等の要旨	<p><b>次第1 北摂7市3町と民間11事業者との協定締結について</b></p> <p><b>【事務局】</b> 北摂7市3町と民間11事業者との協定について説明</p> <p><b>【会長】</b> 新しい協定の中で食品ロス削減の話、プラスチックごみ削減の話がでていたので、何か意見があれば聞きたい。</p> <p>(特になし)</p> <p><b>【会長】</b> この会議に出席の事業者以外に、協定には他の事業者の名前があるが、吹田市内に店舗がないということか。</p> <p><b>【事務局】</b> 1つの事業者は吹田市内に店舗がなく、もう1つの事業者は、店舗はあるが、会議の構成員ではない。</p>

## 次第2 食品ロス削減について

### (1) フードドライブについて

### (2) てまどりキャンペーン

#### 【事務局】

令和5年8月に開催したフードドライブの取組結果、令和6年1月に開催したフードドライブのチラシの前回の変更点について説明。

#### 【会長】

フードドライブ・てまどりキャンペーンに関係した事業者のご意見等を伺いたい。

#### 【事業者】

現在は、全店舗で毎日フードドライブを実施し、食品の回収を行うようになった。昨年は期間限定で取り組んだが、毎日の回収になって量は増えている。ただ、食品廃棄削減という観点では、たくさん集まるからいいというのは違うと思う。店舗では廃棄対象、へこみなどのある商品で賞味期限が1カ月以上あるものを、フードドライブに回している。吹田市に回収量の報告をしていないので、資料には反映されていないが、市民からは多くの量を提供していただいている。

#### 【事業者】

我が社は、同じグループの百貨店で、フードドライブを、先日初めて実施したが、スーパーでの実施はまた行っていない。今後、どう実施するかを検討中である。

#### 【事業者】

フードドライブについては、管理面での問題があり、社内での調整ができておらず、企業として取り組むに至っていない。店舗で出る廃棄前の商品は子ども食堂に提供するなど、少しずつ取り組みを広げている。

#### 【会長】

管理面での難しさとは、食品の保管面なのか、安全面なのか。

#### 【事業者】

どういう商品の提供があるか、それに対してお店で受付するかの判

断の難しさというのが社内で議論になっている。

**【事業者】**

店舗ではフードドライブを常設し、いつでも持ってくるができる。加えて年2回集中受付期間を設けている。今週は、店舗で、今週と来週は宅配で、チラシで組合員の協力を求め取り組んでいる。

前回実施した9月は、店舗で4.4トン、宅配で3.9トン、合計8.3トンほど集まった。

昨年10月末に、令和5年度食品ロス削減推進表彰の環境事務次官賞を受賞した。組合員の自発的な取り組みが基底となっていることを非常に評価されたので、継続して取り組みたい。

**【市民団体】**

食品ロス削減の観点から、いつまでもフードドライブをやっているのはおかしいと思う。

**【会長】**

フードドライブを活発にすることは目的ではないが、多くの事業者で取り組まれ、啓発的な効果を現していると思う。

事業者の管理面が難しいという意見については、既に取り組んでいる事業者から、何か参考になることがあれば教えてほしい。

**【事業者】**

障壁となるのは、常設の場合、賞味期限を例えば1カ月前までと定めても、常設の場合は、期限は移動するので、仕分ける時に、期限切れのものが出てしまう。生鮮食品と違い、消費期限ではなく賞味期限なので、引き取るかどうかは、引取団体に判断してもらっている。この取り扱いについては、フードバンクからもクレームはない。

集まった商品を輸送することは、店舗にとって負担となっている。おそらく他のスーパーでも実施すれば集まると思うが、拠点までの輸送については、同じだと思う。農水省のフードバンクの集まりで、農水省からフードバンクに対して取りに行ってはいけないといったことを言っていた。集まったものをどうするかが、事業者の今後の課題である。

我が社では、たくさん集まっている店舗は自社ルートで回収し、フードバンクに持ち込む。店舗が点在しているところは、市のボランティア

ィアが回収している。社内管理体制については、議論を重ねた。各社それぞれの考えがあると思うが、廃棄する商品の提供は社内稟議で引  
っかかるところなので、各社で議論するしかないと思う。

**【会長】**

フードドライブを実施するのは、思った以上に複雑な問題があり、進  
めていく上で集まった食品をどういうルートに乗せるか、また配送の負  
担をどうするかなど、フードドライブをされる各事業者は自己負担でし  
ているということだと思う。

**【事業者】**

協力していただくところは協力していただき、自分たちでできること  
は自社でやっている。

**【事業者】**

弊社の取り組みは、自社管理は難しいので、常設は、本社のある都道  
府県の社会福祉協議会と連携し、社会福祉協議会が回収箱を設置し、  
回収をする場所の提供という形で進めている。

**【会長】**

てまどりキャンペーンについては、事務局が主体的に動いているが  
今後について、なにかあるか。

**【事務局】**

北摂で新協定を結び、各市と食品ロス削減について話をしている  
が、今後の進め方はまだ決まっておらず、来年度以降については、検  
討中である。

**【会長】**

北摂7市3町で協定を締結したとのことだが、例えばこの場で何か  
提案があれば、意見を聞きたい。

**【市民団体】**

フードドライブみたいなものを、吹田市資源リサイクルセンターで  
昨年2か月ほど実施していた。前年度は不要になったものを提供して  
くれていた。今年度の回収量は増えたが、フードドライブについて誤

解している人、物々交換しようとしていた人がいたので、説明が足りなかったと思った。山田の夢つながり未来館（ゆいぴあ）に見学に行ったが、そこでは不要な食品のフードドライブが行われていた。続けることが大事なので、続けていきたい。

**【会長】**

市や公的施設で行っているフードドライブの実績は、数値として把握できているが、事業者が行っているフードドライブは、市が行っているものより規模が大きい、もっと量が多いと感じるので、行政の数値に反映できれば、事業者もがんばっていますが、さらにがんばろうという気になるのではないか。

**【事務局】**

事業者から数字をいただければありがたいと思うが、数字が多ければいいという話ではないので、検討が必要である。

**【会長】**

フードドライブの回収拠点としてここにありますよ、事業者の取組紹介がメインとなるのか

**【事務局】**

数量については、いろいろな考えがあるが、各事業者の食品ロスに向けての取り組みがインセンティブになり、アピールになるのであれば、今回もチラシには掲載しているが、市に協力依頼いただき、数量だけでなく、取り組みの紹介ということで市の役割を果たしたい。

**【会長】**

てまどりキャンペーンについて、思ったほど効果がなかったというイメージか。

**【事業者】**

販促物を掲示して、お客様に協力いただいているが、てまどりは、まだこれからだと思う。陳列の工夫はするが、認知度が低いこと、お客様のニーズにもよる。継続することで、効果は表れてくると思うが、今のところ、てまどりの販促物で食品ロスが減ったということはない。

**【事業者】**

国が提供している販促物を商品棚に付けている。他の事業者と同じく販促物を付けたからといって、すぐに効果が出るものではない。

お客様の意識向上のために長く続けていくことに意味がある。

**【事業者】**

てまえどりの取り組みは従前から行っているが、食品の廃棄量に変化はない。てまえどりは、息の長い取り組みで、すぐに定着はしないと思う。手前から取ってもらうために、値引きをするなどしている。継続して取り組みたい。

**【会長】**

市民には「てまえどり」については、まだ浸透していないようだ。事業者の取り組みをもっと市民に知ってもらわないと、数字に上がってこないの、行政でも取り組みを紹介することが大事だと感じる。

**(3)その他食品ロス削減の取組について(フードシェアリング)**

**【事務局】**

フードシェアリング・他市の事例について説明・紹介。

各事業者で出た見切り商品等の周知方法を教えてほしい。また、フードシェアリングサービスを導入しているかどうか、今後導入する予定があるかなど教えてほしい。

**【会長】**

議題に挙げているということは、今後フードシェアリングサービスを吹田市でする予定ということか。

**【事務局】**

食品ロス削減の方法として、こういった形があるか模索中の中、手段の一つとして挙げている。

**【会長】**

フードシェアリングとは、飲食店、小売店で期限切れの近いものをサイトにアップすると、消費者に伝わり、値引きされたものを消費者が店舗まで買いに来るといったシステムであるか。

**【事務局】**

そのとおりで、例えばパン屋は賞味期限が早く切れるものが多いので、100 円の商品を80円で登録すると、それを見た消費者が買いに来る。姫路市の場合は、食品ロス削減量を数値で見える形で分かるようになっている。

**【事業者】**

弊社では行っていない。日本は食品衛生法が厳しく、フランスのように余った食材を公的な冷蔵庫に置くと、誰かが取っていくといった形にはならない。製造された日時から、管理していく必要がある。残った食品に値引きシールを貼るだけで精一杯で、フードシェアリングの登録まではできない。いい知恵があれば教えていただきたい。

**【事業者】**

現在、フードシェアリングの実施はなく、検討にも至っていない。品質管理、安全性面、仕組みにおいても、180店舗あるので、個人商店と同じにはいかない。店舗での見切り等は、各店で「食品ロスにご協力ください」という形で呼び掛けを販促物で行っている。単なる値引きではなく、買うことで食品ロス削減への協力を呼び掛けている。

**【市民団体】**

このシステムは、正直手間がかかると思う。夕方は割引商品が並ぶので、主婦は、その時間に買物に行くとよく言っている。その日に食べるものを値引きするほうが、生活にやさしい。

**【市民団体】**

値引きの時間になると人が増えるほど、値引きシールは浸透している。スーパーが値引きで食品ロス削減に努力しているのを感じる。

**【会長】**

他市の消費者がどういう方で、どういう店舗を利用するのかといったデータを行政で把握しているのか。

**【事務局】**

どういった客かが利用しているという情報は持っていないが、値引き販売はその日のうちに売切りたい総菜が多く、中でもパン屋が多い

と聞いている。スーパーでは夕方、値引き販売をするのは知られているが、小売店、飲食店では値引きをしているか、いつから値引きを実施しているかが分からないので、周知をするためにもアプリに登録していると聞いている。

**【会長】**

姫路市では登録数が6万人とあるので驚いている。スマホを使いこなす世代に響いていると思う。他市の調査をもう少し深掘りしてほしい。

**【事業者】**

会社としての回答ではないが、何事も継続して周知していくことが大切だと思った。

**【会長】**

各市のニーズ、消費者の層、店舗がフードシェアリングサービスを提供しているか、アプリを使っているかなど深掘し、若い層をターゲットにするといいと思う。

アプリというと箕面市はアプリの使い勝手が良いと聞いているが、吹田市のアプリはあるか。

**【事務局】**

ごみ関係、給水機の場合、ペットボトルの回収拠点はLINEアプリで見ることができる。登録いただければ、地域ごとのごみの収集日をLINEで受け取ることができる。

**次第3 来年度以降のごみ減量再資源化推進会議について**

**【事務局】**

ごみ減量再資源化推進会議の公開・非公開、規程改定についての各委員への事前アンケート結果を説明

**【会長】**

アンケートの結果も踏まえて、ごみ減量再資源化推進会議の公開、非公開について、どう考えるか。



【市民団体】

会議の公開は構わないと思ったが、アンケートに社内の内情を公開できない場合があるという意見があった。やはり非公開にしたほうが、公開にして建前の話だけになるより、内情を知って、困っていることなど、本音の話のほうが、いい会議になると思うので、公開は時期尚早で、非公開でいいと思う。

【市民団体】

公開がいい。多くの人に取組みなどを知ってもらわないと、ごみの減量は進まない。

【会長】

意見が分かれているので継続審議とする。この会議に立ち会っている市民の方々は、会議で話し合っている内容を伝える使命があるかもしれない。

【会長】

規程第2条に「ワンウェイプラスチックや容器包装の排出抑制を図る啓発に関すること。」を明記するかどうかについて、アンケートでは明記してよいが多数のため、明記してよろしいか。

(全員一致)

明記することに決定した。

【会長】

事業者がごみ削減について、どんどん前に進んでいる、逆に言うと、市民が追い付いていない、そんな感じがした。やはり市民への啓発が必要だと思った。いくら事業者が一所懸命取り組んでも、市民が歩調を合わせないと、こういった仕組みは成立しないと思う。本日聞いたことを、ご自身の参加している団体で、取り組んでほしい。

【市民団体】

この会議に出て、スーパーさんが一所懸命取り組んでいることがよく分かった。市民がもっと食品ロスやプラスチックのカトラリーをなくすよう意識を高める必要がある。行政においては、市報などで、分かりやすくごみ削減が大事であることを発信していただきたい。我々市民団体もできるだけイベントなどを利用して、チラシの配布や、出

前講座などで話をしたい。

**【市民団体】**

ファミリーマートがプラスチックスプーン等を有料化する記事が令和6年1月23日の朝日新聞に掲載されていた。昨年、コンビニでは大手3社（ファミリーマート、ローソン、セブンイレブン）が共同で実験をしたとのことだが、スーパーではこういったカトラリーについてどう考えているか聞きたい。

**【事業者】**

店で配布していたプラスチック製のスプーン、ストロー等は、昨年4月1日以降、希望する方に対して、紙製のものを渡している。

**【事業者】**

カトラリーは木製又は紙製への切替えを終了している。今後もこの形で継続していく。

**【事業者】**

木製への切替えを進行中で、ストローの配布は中止している。プラスチック製のカトラリーはスプーンのみだが、100%生分解できるバイオマスに素材を変更した。他は紙製や木製に切り替わっている。

**【会長】**

こういったスーパーのカトラリーの変更も北摂7市3町の合意、当たり前のことであるという認識か。

**【事務局】**

そのとおりである。その方向で詳細を詰めて、容器包装の削減に努めていく。

**次第4 その他**

**【事務局】**

事務連絡について説明